

平和の詩

「慰霊の日」の沖縄全戦没者追悼式で、宮古島市立西辺中学校2年の上原美春さんが平和の詩「みるく世（ゆ）の謳（うた）」を朗読されました。

※みるく世・・・平和な世界

その時の様子はコチラ ↓

<https://www.youtube.com/watch?v=QoGKIisPjx8>



6-1

写真は加工して掲載しています



6-2

写真は加工して掲載しています



5年

写真は加工して掲載しています



5年

写真は加工して掲載しています

5年生はコロナ感染防止対策として、2つの教室に分かれて給食を食べています。

子どもたちは、真剣に、心で感じながら平和の詩を聴いていました。力強く、たいへん想いのこもったすばらしい朗読でした。「みるく世を創るのはここにいるわたしたちだ」と締めくくられたこの詩は、決意であり、叫びであり、訴えでした。

平和な世の中は、決して誰かが創ってくれるものではありません。何事も自分事として捉え、今の自分にできることからはじめていくことの大切さをメッセージとして私たちに伝えてくれました。

朗読が終わると自然に拍手が起こった教室もありました。「すごーい」と声を上げる子どももいました。

「心に響く」ということは、必ずしも「わかる」ということと同じではありません。むしろ「感じる」に近いかもしれません。この「感じる」ということがとっても大切なんだと思っています。
